

「ご覧になる神」 創世記 16：6-16

I 本時の箇所の背景。ハガルは傷ついた女性。女主人であるサライの計画で、アブラハムの子供をもうけるように導かれた。夫婦の間に子供が与えられない場合は、奴隷の子供を養子にするという習慣があった。また、アブラハムとサライは、それが、神の約束が成就する道と勝手に考えてしまった。人間の弱さが出て来る。みごもると、ハガルは、自分の女主人を見下げるようになった。特別の立場や賜物が与えられると、それは神に預けられたものにすぎないのに、それにより自分が何者かであるように思い上がる弱さが私たち人間にはある。自分が弱い人間の1人にすぎない事を忘れて虚勢を張る事がある。一方サライは、自分に子供が与えられない悲しみを抱えている。それで、なおさらハガルの横柄さに耐えられなかった。自分が提案した事だったが、これほど辛い経験になるとは思わなかった。神のご計画に取り組もうとした事であっても、それはしょせん人間の肉的な判断に基づく事だった。御心を正確に理解しようとしなかった行動。その結果、不必要な緊張を強いられた。もし神の御心であるとの確信があれば、耐えられたかもしれない。しかし、そうではないので、後悔し、同意した夫を責め、ハガルを苦しめるようになった。ハガルは傷ついている。神のご計画や祝福の外に放り出されたように、いわば、神の恩寵のアウトサイダーのように感じている。荒野の泉のほとりで、自分の将来を案じている。悔しさや不安に包まれたずんでい。自分の主人の下から逃げ去ったので、この先どうしていいかわからない。：6。先が何も見えない。自分の心の葛藤と孤独をどう癒したらよいかかわからない。私達も人生の中でそのような時がある。

II 神は、苦悩と痛みの中にあるハガルを、そして私達を見捨てられない。「主の使いは、荒野の泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけ、『サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか』と尋ねた」：8。この問いは、この女性の出発点にも確かに神の存在があった事を確認させる。あなたに命を与え、あなたを導き、エジプトの地から連れ出してサライという主人のもとに置いたのは神である。ハガルや私達の歩みの全行程を導いておられる神がおられる！サライのもとに帰り、身を低くしなさいと諭される。自分の現状をもっと肯定的に見つめるように促される。恵みに富まれる神は励まされる。「あなたの子孫は、わたしが大いにふやす」：10。神は御使いを通して続けて語られる。「見よ。あなたは…男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。主があなたの苦しみを聞き入れられたから。イシュマエルとは「神が聞かれる」という意味。神は、私達の痛みも聞いて下さる。この名前を付けるように導かれた事は、ハガルにとり大きな励ましだった。エジプトから導かれて来たハガルにとって、悩みを共有してくれる人はいなかっただろう。全知全能の神が、アウトサイダーとも思えるハガルの立場とその痛みを聞き入れられるという事は、驚きであり、大きな慰めだった。みじめな人生を顧みられる神、人の失敗の背後で責任を取っておられる神がいて下さる！聖書は慰めに満ちている。天と万物をお造りになり、すべてを治めておられる全知全能の神。このお方は、悪を正しくさばかれる聖なるお方。いつまでも悔い改めないままなら、正しく裁かれる方。しかし、そのような聖なる方が、実に小さな私達の人生にかかわられ、すべてをご覧になっており、痛みを聞いて下さる。このコントラストが明確にされる時、神の素晴らしさは、もっと豊かに理解される。神が罪を憎み正しく裁かれる事が本当にわかる時、主の十字架による救い、赦しのありがたさに本当に感動させられる。神はあまりに聖く、あまりに愛に富んでおられるお方！そういうお方が、孤独で逃げ出している一人の女性に優しく臨まれている。私

達にも優しく臨まれる。

Ⅲ ハガルは、神の臨在に触れ、神が自分に語りかけて下さった事を、この上もない恵みとして喜んでいる。彼女は、主の御名をヤハウエという個有名詞で呼ばず自分の言葉で「エル・ロイ」と呼んだ。主との個人的な関係を意識して決めた呼び名。神が正に自分の神となったという瞬間。直訳は「ご覧になる神」。「ご覧になる」とは、「心にかけて顧みられる」という意味。

全知の神は、宇宙、自然界のあらゆる法則、現象のすべて、過去の歴史のすべて、また今の事も、そして将来起こる事、私達のすべてをご存知である。詩篇139篇は、私達の神が全知である事を明確に語っている。「主よ。あなたは私を探り、私を知っておられます。あなたこそ私のすわるのも、立つのも知っておられ、私の思いを遠くから読み取られます。あなたは私の歩みと私の伏すのを見守り、私の道をことごとく知っておられます」139：1-3。神は、私達以上に私たち自身の事を知っておられる。私達は、どうして自分がそのように悩むのか理解できない時もある。しかし、私達の素晴らしい神は、私達の苦しみのすべてを分かって下さる。私達が苦悩したあの事も、孤独に放り出され沈んでいたあの瞬間も神がご覧になっておられる。ひどく傷つけられ、言い返す事もなく、自分一人でその場をしのいでいた、あの時の自分のそばに神はいて下さった。どうしようもないと思える現実、どこへ行ったら良いか分からない状況をも、神は公平な目でご覧になっておられる。何か間違っていると思える現実がある。改善される余地がないように見える事がある。自分にとって居心地の良い状況がいつまでも続くように感じられる時がある。夢を抱いても実現しそうもないと感じられる葛藤がある。しかし、確かにそこに神はおられる！激しく抵抗した事もある。諦めの思いになり空しくなる事もある。失敗した事が多くある。その失敗を思い出すと心が苦しくなり、その過去を消してしまえたらと思う。失敗した時も、その後で、思い悩む事も神はご存知。私達の弱さを一切ご存知。私達が決断する事も、その結果を刈り取る事も、将来の展開も神はご存知。知っておられるだけではない。心を配られ、顧みて下さる。

Ⅳ 主の励まし。主は、私達のすべてをご覧になっており、個々の状態もご存知で、私達が人生で疲れ果てる時も、私達を見つけ、語り掛け、励まし、支え、導いて下さる事を感謝します。これからも、どんな時も、主から目を離さず、主を信頼し、主に拠り頼み、一日一日を大切に歩めますように。

「わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない」ヘブル13：5